

神奈川の道徳

平成26年度「日本道徳教育学会神奈川支部」研究大会開催

テーマ：心に響く道徳授業を進めるための指導の工夫～魅力的な教材活用や話し合い活動の充実を目指して～

平成26年12月23日、横浜市教育委員会東部学校教育事務所A研修室にて、「日本道徳教育学会神奈川支部」研究大会が開催されました。昨年と同じ天皇誕生日の開催で、年末の忙しい時期でしたが、参加者は42名、多くの道徳教育の研究に志をもつ方々が集まりました。

今年度は、中学校と小学校それぞれ1つずつの実践提案がありました。

①「魅力ある教材の開発と活用について」

望月はる美先生（相模原市立鳥屋中学校総括教諭）

神奈川県版道徳資料集『きらめき』の資料委員会の取り組みについての実践提案でした。神奈川県下の中学校で広く使われている『きらめき』は、神奈川県公立中学校教育研究会道徳教育部会発足以来の長い歴史をもっています。中学校道徳教育の充実と振興を図るために、広く資料を公募して、地域の特色のある、そして生徒の実態に即した資料作りを目指して、資料委員会は資料集の改訂を重ね、その指導案を作成してきました。また、『きらめき』を使った授業の充実を目指した相模原市道徳主任会の取り組みについて報告しました。



②「自分の考えを伝える小グループからの話し合い活動」

奈良沙織先生（川崎市立渡田小学校）

道徳の時間における話し合い活動のあり方・工夫について、4年生の実践を例にしながら提案されました。子どもたちに自分の考えをはっきりともたせるために吹き出しやメモに書きとめる、名前札や手サインを使って意思表示をする、2人のペアでの話し合いから始めて小グループ・集団討議へとつなげていくなど、工夫を紹介しました。



子ども自身もっと他の人の主張や考え方を聞きたい、議論したいと思うような手立ての必要性を訴えました。

提案をもとに全体討議では、教科化が進む中、副読本『きらめき』をどのように使っていくのか、魅力的な資料とはどのようなものか、またゲストティーチャーについて等、多岐にわたる話題について議論されました。



その後の記念講演は、柴原弘志先生（京都市教育委員会指導部長、元文部科学省教科調査官）をお呼びして、「これからの道徳教育を考える」と題して行われました。文科省での会議の予定を変更して駆けつけられ、道徳の教科化に向けて現場教師がどのように取り組んでいけばよいか、わかりやすく熱く語ってくださいました。

当日の議事録について詳しくは日本道徳教育学会神奈川支部ホームページにありますのでご覧ください。



第5回学習会

神奈川支部による学習会を、支部会員に限らず、広く道徳教育に関心をもたれている方を対象に行います。今回は岩間章先生（神奈川支部理事、川崎市立上丸子小学校長）を講師に、「小学校の道徳教育と私の道徳観」というテーマで開催致します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成27年2月28日（土）15:00～16:30

【場所】國學院大學たまプラーザキャンパス

（詳しい場所は当日の標示をご覧ください）

【神奈川支部ホームページアドレス】

<http://www.doutokukanagawa.net/>